

法然上人御法語講座

上卷

目次

はじめに……3

凡例……19

プロローグ——法然遺文総説

- 1 「法語」と「遺文」……22
 - 2 法然遺文の種類……23
 - 3 石井教道編『昭和修法然上人全集』の編纂方針……25
 - 4 『昭和修法然上人全集』収載遺文の出典……26
 - 5 遺文の真撰・偽撰……28
 - 6 法然上人の真筆……30
 - 7 三つの法然遺文集……32
- 〈1〉醍醐寺蔵『法然上人伝記』（『醍醐本』）……33
- 〈2〉『西方指南抄』（『指南抄』）……35
- 〈3〉『黒谷上人語燈録』（『語燈録』）……37

第I部 主要法語

第一章 『つねに仰られける御詞』…46

- 1 法語の出典と信憑性…46
- 2 信心について…48
 - ① 信と行のバランス
 - ② 信の大切さ
- 3 念仏行について…52
 - ① 念仏行における留意点
 - ② 本覚思想と念仏行
- 4 その他の御詞…56
 - ① 観想念仏の否定と三昧発得
 - ② 念仏と学問
 - ③ 死生ともにわづらひなし

第二章 『一枚起請文』…63

- 1 成立をめぐる考察…63
 - ① 真偽の問題
 - ② 源智上人への形見の書？
 - ③ 諸本
 - ④ 成立事情
- 2 名称をめぐる考察…70

- ① 「一枚起請文」という呼称
- ② なぜ「起請文」と呼ばれるのか
- ③ 本当に「起請文」なのか

3 内容についての考察：77

- ① 概要
- ② 読誦文献的性格
- ③ 念仏を信ぜん人
- ④ 「尼入道」と女性差別
- ⑤ 「一文不知」の理解

4 流布と変形本：89

第三章 『黒田の聖人へつかはす御文』（『一紙小消息』）：94

1 名称と伝承についての考察：94

- ① 二つのタイトル
- ② 「消息」と言えるか
- ③ 「黒田の聖人」とは
- ④ 伝承の問題

2 内容についての考察：101

- ① 全体の構成
- ② たとえ一念でも罪人でも
- ③ 「自身はこれ煩惱具足せる凡夫なり」の意味
- ④ 弥陀・極楽・念仏に限る理由
- ⑤ 往生は信心の深きによる
- ⑥ 浄土往生が「よろこびのなかのよろこび」となる理由
- ⑦ 生まれがたき浄土？

- ⑧ 悪人でも往生できるが善人を目指すべし
 - ⑨ 一念でも往生できるが多念すべし
 - ⑩ 弥陀・釈迦・諸仏の御心にかなう
 - ⑪ 天にあふぎ地にふしてよろこぶべし
- 3 真偽の問題…123

第四章 『登山状』…132

- 1 成立をめぐる考察——法難への過程と「登山」の意味…133
- 2 全体構成…136
- 3 『登山状』第一段の検討…137
 - ① 第一段の作者
 - ② 原文と現代語訳
 - ③ 聖覚法印という人物
 - ④ 現世を厭い、悟りを目指すべし
 - ⑤ 第一段における唱導文献としての性格
- 4 第二段以降の内容の考察…151
 - ① 真偽の問題
 - ② 他宗の教えを誹謗すべからず(第二段)
 - ③ 聖道門と浄土門(第三段)
 - ④ 念仏行のすばらしさ(第四段)
 - ⑤ 称名念仏の勧め(第五段)
 - ⑥ 念仏・余行、共に誹るべからず(第六段)
 - ⑦ 一念義批判(第七段)

第Ⅱ部 法語類編

⑧ 本願疑うべからず（第八段）

第一章 『往生大要抄』 ……166

1 和語の教義書 ……166

2 聖道門と浄土門 ……167

① 聖道諸宗の教え
② 浄土門の教え

3 至誠心について ……171

① 心と行との相応
② 隆寛律師と親鸞聖人の至誠心解釈
③ 内心が大切

4 深心について ……178

① 信機と信法の前後関係
② 善導大師の信法と法然上人の信法

③ 法然上人当時の信法と現代の信法
④ 法然上人の励まし

⑤ 信心と邪見
⑥ 他宗・他教に転じる人たち

第二章 『念仏往生義』 ……189

1 疑いの心 ……189

2 忙しいからこそその念仏 ……190

- 3 在家者の念仏と仏壇…191
- 4 かまえて善人にして…192

第三章 『念仏大意』…195

- 1 概要と成立年代…195
- 2 日本人の雑信仰と専修の實踐…196
- 3 時機相応の教え…199
- 4 専修の勧め…201

① 専修の有効性——主従の譬えと登山の譬え

② 専修が至誠心？

③ 至誠心は難行か

④ 専修の勧めと念仏誹謗の者への対処法

⑤ 仏道を踏み外してきた我ら

⑥ 専修の者は多いのか、少ないのか

- 5 聖道門への対抗意識…211

第四章 『往生浄土用心』…214

- 1 全体像と質問者の問題…214
- 2 多念と念仏相続…216

- ①多念と品位の増進
 - ②百万遍念仏
 - ③忘れなければ「相続」
 - ④数珠は持つべし
- 3 高声の念仏と心での念仏…224
- 4 おしゃべり念仏…226
- 5 他力の効力とその譬え…228
- ①宿善は必要か
 - ②他力の譬え
- 6 信心の大切さ…230
- ①川に沈む巨大棲物
 - ②信心を励ます法語
 - ③慣れ親しんだ輪廻の業
- 7 臨終について…235
- ①臨終の良し悪し——善知識は必要か
 - ②二祖の善知識必要論
 - ③現代における臨終行儀考
 - ④臨終正念
 - ⑤三種の愛心
- 8 治病は念仏を申すため…244
- 9 追善回向で往生は可能か…247
- ①追善回向を説く法語
 - ②七分全得

- 1 もう一つの追善回向の法語…258
- 2 常に西を向くべし…261
- 3 いつも見守ってくださっている…263
- 4 身を清めて…264
- 5 資料的信憑性…265

第六章 『七箇条の起請文』（『念仏行者訓条』）…268

- 1 名称と真偽…268
 - ①全体構成と名称
 - ②真撰か偽撰か
- 2 内容について…271
 - ①三心に関する特異な説明
 - ②煩惱を心の客人とする
 - ③自力の念仏
 - ④別時念仏のすすめ
 - ⑤驕慢という魔縁

第七章 『一期物語』…279

- 1 名称と信憑性…279
 - ①「一期物語」という名称
 - ②資料的信憑性と重要性
- 2 登山・修学からの二祖対面…283

- ① 登山・修学
 - ② 『往生要集』との出会い
 - ③ 回心
 - ④ 二祖対面
- 3 下山以後の伝記的事跡…291
- ① 大原問答
 - ② 桜が池伝説
 - ③ 法然上人のご病氣と平癒祈願——高僧は病氣になるべからず
- 4 浄土宗開宗に係る内容…304
- ① 「開宗の文」をめぐる問題
 - ② 梶村説の検討
 - ③ 「一心専念の文」の意義
 - ④ 宗義の独立性—宗義各別—
 - ⑤ 立宗の目的—凡入報土と時機相應—
 - ⑥ 専修批判と法然上人の決意
- 5 念仏以外の修行…317
- ① 持戒と念仏
 - ② 菩提心の廃捨と浄土の菩提心
 - ③ 真言宗の阿弥陀供養法—報身の弥陀と己心の弥陀
 - ④ 「己心の弥陀」否定の理由
- 6 信心獲得の機縁…328

第八章 『三心料簡および御法語』…342

- 1 その真偽と伝承…342
- ① 真撰説と偽撰説
 ② 後世における伝承
 ③ 真偽の検討
- 2 特異な至誠心解釈…348
- 3 還愚痴…351
- 4 念仏に関する法語…353
- ① 専修の意義
 ② 多念の勧め
 ③ 頼まれ念仏
- 5 善人・悪人と「悪人正機」…356
- ① 悪を犯すための念仏
 ② 善人は善人ながら、悪人は悪人ながら
 ③ 悪人正機説の創唱者
 ④ 悪人正機説における善人と悪人
- 第九章 「諸人伝説の詞」…368
- 1 『信空上人伝説の詞』…368
- ① 信空上人
 ② 「進行集」より出でたり
 ③ 法語の内容
- 2 『隆寛律師伝説の詞』…372
- ① 隆寛律師
 ② 今はただ念仏ばかりなり
 ③ 『明義進行集』と隆寛律師
- 3 『聖光上人伝説の詞』…379

① 聖光上人 ② 烏帽子もきざる男

③ 安房の助（阿波介）の念仏と同じ ④ 一丈の堀を越えんとする者は

⑤ 「法然」の名の由来——時国公討死との関係 ⑥ 三学非器

4 『禅勝房伝説の詞』……386

① 歓喜踊跳の心 ② 念仏への確信と助ささぬ念仏 ③ 法爾の道理

5 『乘願上人伝説の詞』……393

① 乘願上人 ② 観想念仏という「いたづらごと」

③ 「三心の月」は自然に宿る ④ 今度こそ往生したいものである

法然上人御法語講座 下巻 目次

法然上人御法語講座

下卷

目次

凡例……16

第Ⅲ部 問答編

第一章 『念仏往生要義抄』……18

1 構成と真偽……19

① 不思議な構成 ② 真偽の問題

2 念仏についての九つの問答……25

① 末代の悪人、皆念仏にて往生す——“悪人正機”との相違

② 自力の念仏と他力の念仏 ③ 出家の念仏と在家の念仏

④ 日本仏教の在家主義 ⑤ 余念なき念仏と散心の念仏

⑦ 臨終の念仏と平生の念仏 ⑧ 往生が定まるのはいつか

⑥ 一声・十声は臨終時

⑨ 智者の念仏と愚者の念仏

3 女性を意識した文言……39

① 女人往生 ② 三念五念

第二章 『要義問答』……46

1 全体の構成と文献成立の事情……47

2 内容についての考察…48

①出家には功德あり ②兜率往生

③『法華経』往生の否定と機根をはからう教相判釈

④所依の経論に関する疑問 ⑤「回向」の意味

⑦『観経』の三心と『無量寿経』の三心 ⑧往生後の行 ⑥「一心」は「三心」

第三章 『十二問答』（『禅勝房との問答』）…63

1 伝承とその構成…63

①多彩な伝承 ②「十一問答」と「十二問答」

2 問者の検討——禅勝房について…67

3 浄土宗立宗批判…70

4 九品往生——九品に差別なし…73

5 念仏の数量についての問答…75

①多念相続すべき ②多念と破戒

6 念仏と諸行についての問答…81

①念仏と諸行 ②『選択集』における助業 ③往生確信以後の助業

7 念仏と日常生活についての問答…87

第四章 『十二箇条の問答』 …… 107

- 1 質問者は女性 …… 107
 - 2 名聞利養の心と念仏 …… 108
 - 3 散心の念仏 …… 112
 - 4 信心が発らないという嘆き …… 114
 - 5 法然上人と親鸞聖人の信心に対する解釈 …… 117
 - 6 念仏者の心の持ちよう …… 119
 - 7 主人と従者 …… 122
 - 8 悪事を恥じ、孝行をせよ …… 123
- ① 好んで悪をなすべからず
- ② 人目を恥じる
- 9 他力と三心 …… 95
 - ① 二度の昇殿
 - ② 出家の三心と在家の三心
- 8 わが耳に聞こえるほどの念仏も高声念仏 …… 92
 - ③ 自絶往生の否定
 - ① 第一三番目の問答の真偽
 - ② 現世を過ぐべき様は

第五章 『東大寺十問答』 ……129

- 1 成立の背景…129
 - ① 東大寺と法然上人
 - ② 重源上人と法然上人
- 2 『東大寺十問答』の概要…136
- 3 真偽の検討——特色ある概念について…144
 - ① 辺地往生（第二問答）
 - ② 智具の三心・行具の三心（第三問答）
 - ③ 十念・一念は臨終の時のこと（第九問答）
- 4 真偽の検討——文献全体からみて…148

第六章 『一百四十五箇条問答』 ……157

- 1 真偽と特色…158
 - ① 真偽の問題
 - ② 質問者と問答の特色
- 2 往生行に関する問答…163
 - ① 念仏の数
 - ② 『阿弥陀経』読誦と五色の糸
 - ③ 本覚思想と己心の弥陀への批判
- 3 一般仏教に関する問答…172
 - ① 持戒に関する問答
 - ② 妬み心は罪か
 - ③ 仏を恨むべからず

第Ⅳ部 消息編

第一章 『正如房へつかはす御文』 ……194

1 正如房について…194

① 小川・岸・石丸説

② 「正如房」は式子内親王か

③ 面影びとは法然上人？

④ 法然上人のラブレター!?

2 内容についての検討…203

① 念仏往生を非難する人々

② 念仏往生疑うことなかれ

③ 臨終の善知識は不要

④ 来迎あるゆえの臨終正念

⑤ 八十億劫の生死の罪とは？

4 俗信と「穢れ」に関する問答…180

① 俗説を信ずべからず

② 仏教に「忌み・穢れ」なし

④ 経本等の焼却

⑤ 説教の聴聞

⑥ 出家者に厳しい法然上人

第二章 『鎌倉の二位の禅尼へ進ずる御返事』…216

1 成立の背景と宛人の問題…216

① 本消息における二つの疑問

② 三田説と梶村説

③ 両説の妥当性の検討

④ 政子以外の人物宛の可能性

⑤ 政子に念仏信仰はあったのか

2 導入部と前半部分…225

① 導入部の敬語表現

② 熊谷・津戸は無智の者なれば

③ 念仏非難の者をかえって哀れむべし

④ 還相回向で不信の者も極楽に迎えるべし

3 後半部分の五箇条…232

① 心淨き念仏

② 「禅尼宛」と「津戸宛」の対応

③ 他宗の法会や造寺への結縁の是非

④ 傍正義的あり方の具体例

⑤ 念仏者でない者への対処法

第三章 『浄土宗略抄』…245

1 北条政子宛の教義書?…245

2 内容上の注目点…247

- ① 内心を制し外は機嫌に従え
- ② 雑行の者は多く専修は少なし
- ③ 現世利益——転重軽受（重き病を軽く受く）
- ④ 現世利益は「不求自得」

第四章 『熊谷の入道へつかはす御返事』…255

1 熊谷直実という人物…255

- ① 武士の台頭と法然上人の教え
- ② 直実の前半生
- ③ 直実と法然上人
- ④ 直実をめぐる逸話・伝説

2 消息の内容…265

- ① 直実宛の書状について
- ② 九月十六日付書状（宛名のない消息）

- ③ 四月三日付書状（予告往生に対する御詞）

- ④ 建永二年正月朔日付書状（「腹悪しき」直実）

3 五月二日付書状…270

- ① 法然上人の教化方法
- ② 但念仏の文
- ③ 雑修から専修への導き
- ④ 六万遍の念仏以外に何が？

第五章 『大胡消息』 …… 281

1 大胡太郎実秀という人物 …… 281

2 実秀の妻に宛てた消息 …… 284

① 消息の宛名の混乱 ② 「実秀妻宛」消息の概要

③ 五逆罪と誹謗正法の者も往生できるか ④ 撰取不捨曼陀羅

3 実秀に宛てた消息 …… 291

① 「実秀宛」消息の概要 ② 法然上人の布教の特色

③ 三心は必ず必要 ④ 『法華経』読誦による往生

⑤ 「雑修」では絶対に往生できない ⑥ 余行誹謗の誠め

⑦ 破り捨てよ（不可他見）

第六章 『津戸三郎へつかはす御返事』 …… 307

1 津戸三郎という人物 …… 308

① 法然上人への帰依 ② 関東での念仏生活

③ 出家と割腹往生

2 津戸宛消息一覧 …… 312

3 「四月二十六日付」消息（病氣見舞いの返礼） …… 313

- 第七章 『御消息』 …… 347
- 1 タイトルの問題とその概要 …… 347
- ① 不思議なタイトル ② 『往生大要抄』との類似性
- 4 「九月十八日付」消息（無智ゆえの念仏の否定） …… 316
- 5 「九月二十八日付」消息（三十余人の新たな念仏者） …… 319
- ① 津戸の念仏の素晴しさ ② 念仏の要文
- ③ 「熊谷入道の文」
- 6 「十月十八日付」消息（幕府からの呼び出し） …… 325
- ① 津戸尋問 ② 想定問答の依頼 ③ 『専修正業文』
- ④ 善導弥陀化身説 ⑤ 殿は道理深くして
- 7 四つの断片的消息 …… 334
- ① 「袈裟等乞はれける時の消息」 ② 「念珠を所望しける時の消息」
- ③ 「真影を所望しける時の消息」 ④ 「或時の消息」
- 8 「八月二十四日付」消息（配流見舞いの返礼） …… 338
- ① 配流先からの消息 ② これも穢土の習い ③ 「遺恨」を懐くな

第V部 制誠編

第一章 『七箇条制誠』…362

1 成立背景と特徴…362

① 元久の法難と建永の法難

② 本遺文の信憑性と文献的性格

2 内容についての検討…366

① 他宗誹謗への誠め

② 「造悪無碍」と「破戒為宗」

③ 戒は仏法の大地

④ 師説と偽って

⑤ 魔の眷属

2 内容についての検討…350

① 念仏往生の道を歩めない人たち

② 布教がうまくゆかない

③ 善根を取り返してでも往生に振り向けよ

④ 三心を具えることは難しくない

⑤ どんな行でも往生できるか

第二章 『送山門起請文』…376

1 特徴と内容…376

① 『送山門起請文』とは

② 遺文の内容

③ 普段の御詞との相違

2 「内専修外天台」説の検討…381

① 「内専修外天台」とは

② 叡山沙門源空

第三章 『越中国光明房へつかはす御返事』…386

1 二つの「一念義」…386

2 成立の経緯…388

3 一念義批判…389

4 真偽の問題…390

第四章 『一念義停止起請文』…394

1 成立と名称…394

2 「無念」の教え…397

3 我こそ奥義伝授の者…398

4 利養のための宗教活動…399

エピローグ——和歌「月かげ」再考……403

1 詞書の問題……403

2 内容について——現代語訳の再検討……404

① 歌の大意

② 「住む」か「澄む」か

③ 「月かげ」の歌の試訳

3 「月かげ」のメロディー……409

索引

法然上人御法語講座 上巻 目次